

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-192964

(P2005-192964A)

(43) 公開日 平成17年7月21日(2005.7.21)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 7 B 88/00

A 4 7 B 77/04

A 4 7 B 77/06

A 4 7 B 88/20

F I

A 4 7 B 88/00

A 4 7 B 88/00

A 4 7 B 77/04

A 4 7 B 77/06

A 4 7 B 88/20

テーマコード (参考)

3 B 0 6 0

審査請求 未請求 請求項の数 9 書面 (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2004-29954 (P2004-29954)

(22) 出願日 平成16年1月5日(2004.1.5)

(71) 出願人 591220148

伸洋産業株式会社

広島県福山市川口町2丁目20-24

(72) 発明者 竹中 伸太郎

広島県福山市川口町二丁目20番24号

Fターム(参考) 3B060 EC01 FA00 MA01 MB00 RA02
RA03

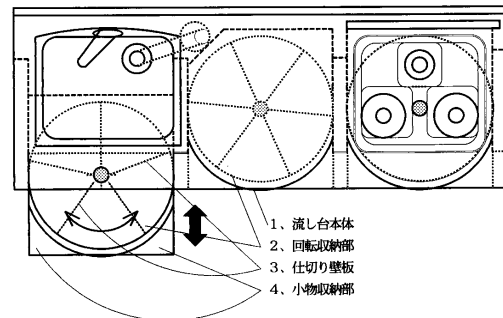
(54) 【発明の名称】 格納部が回転収納部付き引き出しの流し台。

(57) 【要約】

【課題】 流し台収納引き出し収納部は、最奥部収納の確認の為には引き出し奥行きの前長を手前に引き出さなければならず、しかも狭隘な台所ではスペース的な不便さと、全長の引き出しで調理多忙中の収納物品の落下散乱も発生。

【解決手段】 流し台本体に引き出し式の回転可能な回転収納部を装填し、二分の一の手前引き出しで、回転収納部を手動、又は自動で回転させ、最奥部位の収納物も一瞬にして最前部位に位置する事が出来、調理作業中の引き出し選出も、省スペースで瞬時に取り出しが可能である。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

流し台本体（１）の前面が直線形状で引き出し内の回転収納部（２）内が、必要に応じて自由にスペース変更可能な仕切り壁板（３）が設けられ、前面直線形状の引き出し内部手前の左右に小物収納部（４）が装着され、引き出し奥行き二分の一長さを手前に引き出すだけで、回転収納部（２）の回転によって、瞬時に収納及び収納品確認が可能な、格納部が回転収納引き出しの流し台。

【請求項 2】

流し台本体（１）の回転収納部（２）が多角形回転収納部の、請求項 1 記載の、格納部が回転収納引き出しの流し台。

10

【請求項 3】

既存の流し台（５）の収納引き出し内に装填して使用する様に制作された回転収納部（２）で、その内部に必要なに応じて仕切り壁板（３）が設けられる、請求項 1 乃至 3 記載の、格納部が回転収納引き出しの流し台。

【請求項 4】

流し台本体（１）の引き出し自体の前面が、曲線形状の回転収納部（２）で、回転収納部（２）が円形、或は多角形の、請求項 1 乃至 4 記載の、格納部が回転収納引き出しの流し台。

【請求項 5】

流し台本体（１）の引き出し自体の前面が曲線形状の回転収納部（２）であるが、流し台天板（６）が調理面積獲得と加工工程のために直線形状矩形で、回転収納部（２）が円形、或は円形類似の多角形の、請求項 1 乃至 4 記載の、格納部が回転収納引き出しの流し台。

20

【請求項 6】

流し台に、或はその付近に設置された収納品記憶装置（７）と収納部明示盤（８）に、既に電氣的記憶させた電気制御盤（９）によって瞬時に回転収納部（２）内の所在が明示される、請求項 1 乃至 5 の、格納部が回転収納引き出しの流し台。

【請求項 7】

収納引き出しに、又は流し台自体に設置された回転収納部明示灯（１０）が、既に電氣的記憶させた電気制御盤（９）によって、瞬時に点灯明示される、請求項 1 乃至 6 の、格納部が回転収納引き出しの流し台。

30

【請求項 8】

電気制御盤（９）と連動する呼び出し駆動装置によって、流し台に設置された全部又は一部の回転収納部（２）内の収納品が、操作スイッチによって自動検索されて最前部位に自動的に回転呼び出しが可能な制御機構を持った、請求項 1 乃至 7 記載の、格納部が回転収納引き出しの流し台。

【請求項 9】

流し台に設置された全部又は一部の回転収納部（２）が、操作スイッチによって、回転収納部（２）の引き出しが、規定寸法だけ手前に自動的に飛び出す電気制御機構を持った、請求項 1 乃至 8 記載の、格納部が回転収納部付き引き出しの流し台。

40

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、狭隘な家庭厨房に設置して、収納引き出し奥行きの 1 / 2 の手前引き出しで、回転収納部の回転によって、引き出し最奥の収納品でもわずかな引き出し距離で、省労力と素早い取り出しが出来、狭隘な台所スペースを有効に利用して収納物品の有効管理を図った、家庭用、業務用、一般船舶用、レジャー船舶及びキャンピング自動車等のあらゆる分野で、可能な限り省労力と省スペースをもっとうに生活改善と狭隘なわが国家庭におけるキッチン事情を勘案し発明されたものである。

【背景技術】

50

【0002】

従来の流し台収納部位は、扉方式か、昨今の単なる引き出し方式である。

【0003】

収納部位が扉方式の場合は、大物、びん類、等々の雑然とした収納しか出来ず今日の厨房用品の小型多用化の備品収納にそぐわない。

【0004】

又、昨今流行の引き出し方式は厨房用品の小型多用化に順応しているように思えるが、引き出し奥部位への収納保管或は物品の取り出しは、引き出し奥行きを全部引き出さなければならず、狭隘な厨房では非常に不便である。

【0005】

同時に、一旦収納した後は、その探索に非情な労力を費やしている。

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

収納、格納には引き出しが周知の事実であるが、従来の様な単なる引き出しでは収納管理に問題があり、より有効に、より便利に利用可能な方式を考察すべきである。

【0007】

そのためには、僅かな引き出し、最大でも奥行きの二分の一引き出しによって収納箇所のは全部が確認可能な構造が最も有効である。

【0008】

しかも、製造コストは単なる引き出しと大差ない構造でなければ、全所得階級での使用が限定されるため、極限までのシンプル性が要求される。

【0009】

同時に既存設置の角型収納引き出し収納使用中でも、別途挿設により、より有効な使用法の探索にある。

【0010】

つまり、既に購入済みの単なる従来の引き出し式の場合に、流し台の買い替え不能な場合には、それらの引き出しの中に回転収納部を装填する事も考慮した。

【課題を解決する手段】

【0011】

簡単な方式ではあるが、狭隘な住宅事情の中で、引き出し全長の全部を手前に引き出さなければ最奥部位への収納、或は取り出しが出来ない不便さ、これを回転収納部を回せば最奥部位が目の前に来る原理、これを従来の四角の単なる引き出しと比較すれば、収容量も大差なく、円中心で回転可能な構造にする。

【0012】

その事により、引き出し奥行きの二分の一を引き出せば、その引き出し最奥部に収納されて目視不能な位置でも、手前で左右に回転すれば、引き出し内部の収納品のすべてが目視確認出来る。

【0013】

この事によって、狭隘なキッチンでも、引き出しを開けたままでも楽に流し台の全域の通行でき、当然ながら香辛料の様な何種も料理に使用するために引き出しを引き出したままの取り出し、料理作業にも大変便利となる。

【0014】

既存の角型引き出し収納部が付いた流し台に本発明の回転可能な回転収納部（3）を、既存の角型引き出し内に装填する事で、既存の流し台のより有効性が発揮される。

【0015】

電化制御コントロールの時代、又高齢化社会での生活態様、流し台に収納した物品の収納場所の忘れ、これらを一目瞭然と明示してくれる収納部明示盤、或はその引き出し位置のランプによる明示、より向上させて回転収納部の位置、或はその最奥部を最手前に回転呼び出した上での自動的引き出しも行い、絶大な賛意を受けた。

【0016】

10

20

30

40

50

流し台本体（１）の上部天板は従来通りの横長の矩形形状のままよし、又引き出し形状にあわせて正面は回転収納部（２）の前部曲線がそのまま流し台正面形状とした場合、形状的にもコントラストと、視覚面からは柔軟性感覚の斬新性を発揮し、その上で機能性は回転収納部（２）の二分の一の手前引き出しで、全収納確認が可能となる。

【発明の効果】

【００１７】

旧来市販のシステムキッチン流し台下部収納部位の格納は扉開閉の単なる大型食用液体類のびん格納場所的色彩があり、ゴキブリの巣で、現代流通社会の多品種少量選択購入にはふさわしくない流し台収納に加え、昨今の単なる引き出し式の収納部は、狭隘なわが国台所建築事情にマッチせず、中には引き出し全開で幼児が頭を引き出し角に接触して怪我をする事も有り、わずかな手前引き出しで、最奥の収納品の取り出しも可能となった本発明は、台所流し台の収納引き出しに限らず、その有効性は大きく広がる。

10

【００１８】

その最大の特徴は、回転収納部にあり、引き出し格納の奥に収納された物品、或は香辛料等は、引き出し収納部の二分の一未満の手前引き出しだけで済むため、料理中でも開放のままで、その時々料理に必要な香辛料、調味量等々が、何時でも、すぐに、格納したままで、摘出使用可能である。

【００１９】

つまり、引き出し奥行きを二分の一を手前に引き出せば、回転収納部を軽く左右どちらかに回転させれば最奥部位の格納物品は瞬時に目の前に洗われる事から狭隘な台所スペースでの調理作業に、又料理中に思い出しての香辛料探しにも、大きな余裕を与えるものである。

20

【００２０】

又、従来の単なる引き出し収納の流し台を最近購入設置した場合等で流し台の新規購入が出来ない場合、既存の引き出しの中に装填する回転収納部を単独で装填設置する事により、全くそのまま流し台の機能性を向上させる事も行い、その機能性の確認も行った。

【００２１】

これらの各種すべての回転収納部引き出しにつき、特に昨今の少量多品種購入の時代、多種多様な小物の収納部位確認が、何処に何が格納されているのか忘れてしまい、複数の引き出しを引き出して確認する手間を省く為に収納部記憶装置でインプット収納部明示盤を流し台本体又は付近に設置し、電気制御によってスイッチ一つで目的場所が判明する事も機能性向上につながり、或は目的物収納部位が最善部位呼び出しを自動的に稼働させる電気稼働方式も行ったが、ＩＴ時代のわが国で、自動化が遅れている流し台で非常に便利で有効であった。

30

【００２２】

「図１０」のシステムキッチン流し台の引き出しの格納時は、天板のみを従来の流し台外観と同様の矩形平面にすれば上部は直線的デザインで平面積は広く取れ、天板形状は従来通りの矩形で、引き出し部位は回転収納部（２）の外観に添って垂直部位正面では、好みによってゆるやかな波形形状の曲線にする事によって、斬新な柔軟性をイメージすると同時に、又「図９」の様に流し台天板や流し台シンク洗い場も手前を曲線化すれば、何とも言えない精神的安堵感をももたらした。

40

【発明を実施するための最良の形態】

【００２３】

種々実施の形態から、その代表的一部を述べる。

【００２４】

流し台本体（１）に挿設された矩形の収納引き出しの中に、回転可能な回転収納部（２）を装着し、わずかな引き出し距離で回転収納部位の回転によって収納及び収納品確認可能な様にする。

【００２５】

流し台本体（１）の回転可能な、回転収納部（２）の形状を円形に、又は製作上での行

50

程から多角形の場合もある。

【0026】

流し台本体（１）の回転可能な回転収納部（２）の内部に移動設置可能な仕切り壁板（４）を装着し、特に多種多様な小物の整理整頓を容易にする。

【0027】

既存の流し台（５）の角型引き出し式の流し台には、流し台全部の交換設置でなく、現存流し台引き出し（６）の内部に装填して使用する様に制作された回転収納部（２）を装填して容易に使用する事も可能とする。

【0028】

数ある回転収納部（２）の中の収納された物質は、よくあるように、何処に何を収納したかの忘れによる多重購入の経費的ロスの削減からも、又使用の便利性からも、収納品記憶装置（７）でインプットし、収納部明示盤（８）を電気制御盤（９）によって格納時にイプット下電氣的記録によって、何時でも、誰でも、瞬時に収納場所が明示されるものも行った。

【0029】

もう一段進歩して電氣的に制御すれば、収納場所の明示と共に、電気動力的に回転収納部（２）の最奥部位が最前部位に回転位置替される機構をも持たせた。

【0030】

製作クラスによっては、電気動力的に回転収納部（２）の最奥部位が最前部位に回転位置替されると同時に、一定寸法だけ手前に引き出される機構をも行い好評を得た。

【実施例】

【0031】

数ある実施例から、いくつかの実施例として家庭用流し台に装着された本発明について請求項に基づいて説明する。

【0032】

「請求項１」は、流し台本体（１）の収納部位を回転収納部（２）の引き出し形式とした。

【0033】

この引き出し形式は、従来の単なる周知の事實的な単なる引き出しでなく、回転可能な回転収納部（２）とし、必要に応じては位置替え可能な仕切り板（３）を設け、円形及び多角形の形状とした。

【0034】

回転収納部（２）手前部位左右の余剰個所には、スペース有効利用の為にコーヒースプーン等のよく使う小物収納の小物収納部（４）が装着される。

【0035】

回転収納部（２）は、円形又は多角形で直系の二分の一を手前に引き出すだけで、回転収納部（２）の回転によって収納及び収納品全部の確認が可能である。

【0036】

回転の転がり原理は、中央軸主流の場合は、重量物をバランス意識無しに収納すれば、中央委軸に負担が掛かる事から、中央は回転ガイド的で回転収納部（２）底板の円周部位で複数のベアリングで受けたが、非常に有効であった。

【0037】

このほかにも、硬度ある樹脂、金属、無機類等の球状物体を敷き、中央軸でガイド回転も有効であった。

【0038】

円形の場合と多角形の場合の差は、使用上の問題もさる事ながら、木製の円形製作はそれなりの材料が必要だが、多角形では引き出し周囲壁板に端材が利用できるメリットがあるが、薄い金属製、樹脂性景品の場合も行い好結果を得た。

【0039】

「請求項２」は、流し台本体（１）の回転可能な回転収納部（２）が円形又は多角形で

、中心を基点にして回転可能とした。

【0040】

この回転収納部（２）の素材は、木製と、薄板の金属製、樹脂成型をも実施したが、どれも軽量で、回転もスムーズに実施できた。

【0041】

「請求項３」は、既存の流し台の単なる角型引き出し内に、別途装填して使用する様に制作された、円形又は多角形の回転収納部（２）で、回転収納部（２）の回転によって、わずかな引き出し距離で、回転によって収納及び全収納品の確認が可能にしようとしたものである。

【0042】

装填する回転収納部（２）は、既存の旧来の引き出し底板が傷んでいるか、又は薄いベニヤ底板が多く、強度に耐えられない事から、円形又は旧来の引き出し内容積寸法の樹脂板、ベニヤ板、場合によっては鋼板の板に回転収納部（２）の中央軸を固着し、ローラーを回転収納部（２）底外周下に置く事で好結果を得た。

【0043】

「請求項４」は、流し台正面が平面でなく、回転収納部（２）の半円に近い曲線の立体的形状で、流し台のイメージチェンジと、実用的効果をはかり好結果を得た。

【0044】

「請求項５」は、前「請求項４」の大きな曲線を和らげて、柔軟な曲線美を表わしたものであり、機能性は全く遜色なく、その効果を発揮した。

【0045】

時には、流し台天板（６）は従来の矩形形状とし、引き出し部の前面のみをゆるやかな屈曲曲線としたが、製造価格は変わらないが高級感あふれる流し台となった。

【0046】

又、流し台天板（６）が広く使え、回転収納部（２）の制作も端材が使える多角形状も、又回転収納部（２）の材質も、木材から薄板金属製、時には樹脂成型品をも使用したがこれも効果的な物となった。

【0047】

請求項６は、今のＩＴ時代から取り残されている流し台自体をに機能性を付加させるために、電氣的に収納品の所在を一目瞭然に表示する機能を持たせた。

【0048】

少量、多品種の数多い収納品を、特に引き出し方式の欠点である引き出し奥部位の収納品を、収納時に簡単に収納品記憶装置（７）でインプットすれば、収納部明示盤（８）にタッチするだけで流し台のそれぞれの回転収納部（２）内部収納品名が表示され、仮に常時使用者でなくても、どの回転収納部（２）内に、何が収納されているのかが一目瞭然となるものであり、特に物忘れが多くなった年代には、多重購買が排除され、非常に効果的であった。

【0049】

「請求項７」は、物品収納場所を瞬時に探索可能にして、前「請求項６」の収納部明示板（８）に同様に、何時でも、誰でも、スイッチ一つで探索、回転収納部（２）に設置された回転収納部明示灯（１０）が点灯し、所在を明示するもので効果的であった。

【0050】

「請求項８」は、ステッピングモーター等の自動回転駆動装置（１１）によって、回転収納部（２）に連結し、収納品記憶装置（７）でインプットした収納品を、収納部明示盤（８）の検索によって、回転収納部（２）の位置とともに、検索した収納品を自動的に最前部位に回転させる物であり、流し台以外の各種多品種収納機器でもでも重宝される物である。

【0051】

「請求項９」は、物品収納場所を瞬時に探索可能にして、何時でも、誰でも、スイッチ一つで探索、表示盤に明示されると同時に、回転収納部（２）を、電氣的回転稼働によっ

10

20

30

40

50

て、目的物品位置を最前部位に移動停止させるもので、その上当該回転収納部（２）を、一定寸法だけ、手前に自動で飛び出す施策を取ったものである。

【産業上の利用可能性】

【００５２】

従来から有る流し台が収納部位が扉であったが、現在は引き出し式しか売れないマーケットの理由が、流し台製造者の単なる販売促進目的で新規性にのみで機能性に留意しないが為に、引き出し奥の収納、取り出しに、狭い台所で、引き出すスペースに必要以上に神経を使っている。

【００５３】

又、更新料、調味料も、家庭用の少量瓶の場合は、その単なる引き出しに無造作にしまいこみ、捜すのに不便さを、或は搜索放棄で再度購入するものまでである。 10

【００５４】

この問題が多く消費者から何とかしてくれるように訴えられている現状から、大きなマーケットが期待される。

【図面の簡単な説明】

【００５５】

【図１】天板が矩形形状で回転収納部を持った引き出し付き流し台の上視図である。

【図２】回転収納部を持った引き出し付き流し台の正面図である。

【図３】回転収納部が多角形の回転収納部の上視図である。

【図４】回転収納部が円筒形状、及び多角形状の回転収納部の上視図である。 20

【図５】既存の流し台の、既存流し台引き出しに回転収納部を装着した上視図である。

【図６】既存流し台引き出しに回転収納部装着の回転収納部のＡ－Ａ断面図である。

【図７】既存流し台引き出しに回転収納部を装着した上視図である。

【図８】天板が回転収納部の曲線に添った、引き出し付き流し台の上視図である。

【図９】天板が回転収納部の曲線を緩やかにした、引き出し付き流し台の上視図である。

【図１０】天板だけ直線矩形で、正面部位は回転収納部の曲線が緩やかな上視図である。

【図１１】回転収納部への収納物品の電気記録で収納位置を検索明示する斜視図で有る。

【図１２】回転収納部への収納物品の収納引き出しを検索ランプ表示する斜視図で有る。

【符号の説明】

【００５６】 30

１ 流し台本体

２ 回転収納部

３ 仕切り壁板

４ 小物収納部

５ 既存の流し台

６ 流し台天板

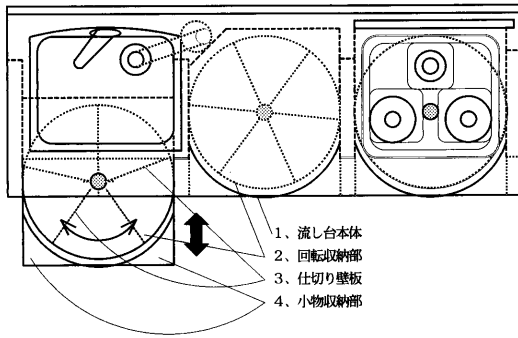
７ 収納品記憶装置

８ 収納品明示盤

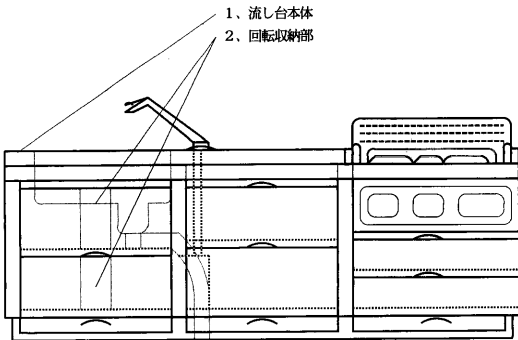
９ 電気制御盤

１０ 回転収納部明示灯 40

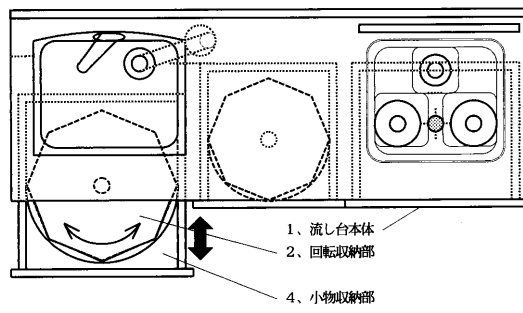
【図 1】



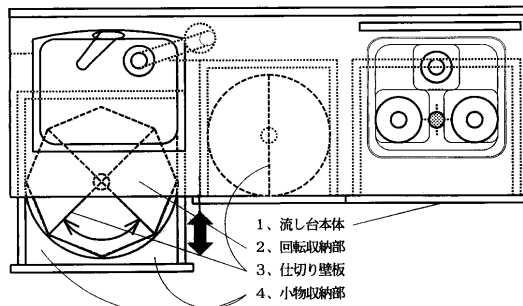
【図 2】



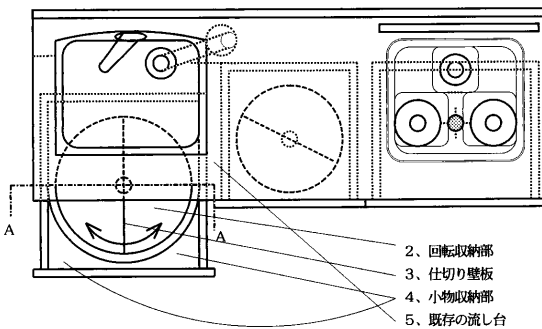
【図 3】



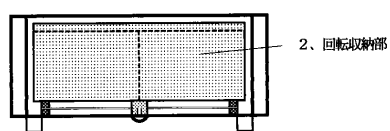
【図 4】



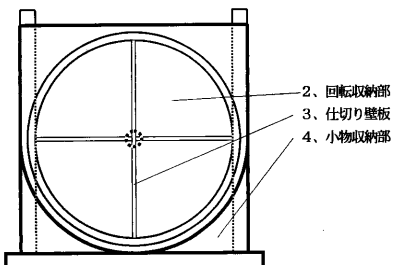
【図 5】



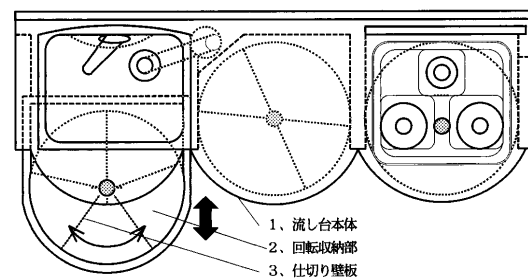
【図 6】



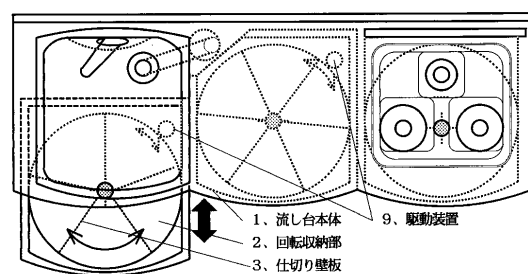
【図 7】



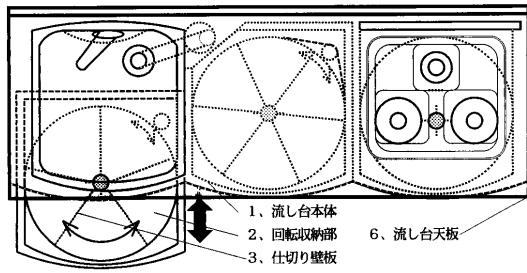
【図 8】



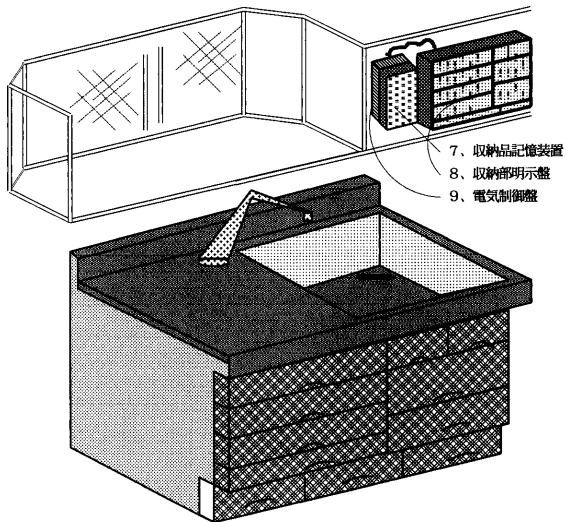
【図 9】



【図 10】



【図 11】



【図 12】

